

ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために

栃木保健医療生活協同組合



2025年3月
551号

健康とくらし

2面

山あり谷ありの歩み —栃木保健医療生協の50年②—



皆さんはドーナツの穴を食べることができますか？ドーナツを食べてしまつたら穴は無くなってしまいますよね。わたしたちがドーナツを見るとき、その中心には何もない空間があります。この空間は実体として「存在しない」はずですが、ドーナツ生地に囲まれることでドーナツの穴として「存在する」ことになります。反対に言えば、その何も無い空間があるからこそ、焼き菓子はドーナツであると言えます。あらためて考えてみると、なんとも不思議な話ですね。

中国の思想家・老子は次のような言葉をのこしました。「三十輻一轂を共にする（さんじゅうぶくいっこくをともにする）其の無に当たりて車の用有り」これは、「車輪には三本もの矢があるが、中心の空洞があるからこそ車が動く」という意味の言葉で、何もない「無」があることで、はじめて役に立つ「有」が生くるという考え方です。老子はこれを「無の用」と説きました。

学習コンテンツやトレーニングジムの広告でよく目に見える「スキマ時間を有效地に」といった謳い文句は、わたしたちの目に魅力的にうつります。しかし、そのような時間にあって何もせず、一見無駄に思えるような時間を過ごすことは「無の用」の立場から言えば、むしろ心の余裕を生み出す「有」の時間ともいえるでしょう。

ドーナツの穴が無ければドーナツそのものが無いように、この世の中のあらゆるものは表裏一体で成り立つといふのは、白黒はつきりさせなければいけない場面において「どちらも真理ですよね」とか「どちらでもありますね」と答えたらい、相手にあきれられて、相手にされなくなってしまうんですね。（老子はそれを良しとしていますが・・・）そんな「正解探し」に疲れてしまつたら、熱いコーヒーを入れてドーナツで一休みしてみるのもいいかもしれません。さて、そのドーナツを手に取つて中心の穴をよく見てください。あなたはドーナツの穴を食べるこ

待合室

山あり谷ありの歩み | 栃木保健医療生協の50年(2) |

夫と二人三脚で

天谷美恵子



天谷美恵子さん

元介護サービスセンター虹所長・看護師／
宇都宮北西支部運営委員

せんでした。

私は産休中だったので働くつもりはなく子育てに専念していました。隣の診療所で働く夫はショッピング外来を抜けて、娘の様子を見に来るのです。夫が赴任する前は、医者が週替わり、日替わりで変わるので、患者さんが少なく、要するに暇でした。しかし、診療所のすぐ隣ですから、夜中でも急患が診療所に来ればすぐに向かい、昼間もずっと働いていました。夫は地元ですから、宇都宮の診療所を守らなければと気概を持つていたと思います。

宇都宮に来て1ヶ月たった頃に閉鎖している病棟を開けるようになりました。夜間は男性の事務担当者と5人の看護師で回していました。当時の医者は夫ただ一人。往診になると運転免許を持たない夫と事務担当者で出かけました。

外来看護師が足りないため、私に看護師として働いてくれないかと話がきました。師長が「ありんこ保育園という無認可の保育園がある」と。さっそくそこへ見学に行き、自然の中で子どもをのびのび育てられるいい環境だと思い、長女を預けて、私も働くことにしました。私は昼間だけですが、病棟も診る看護師は休みなく働いていました。仕事は好きでしたし、むしろ一緒に働いて力になりたいと思つていました。

地域ではゲートボールが流行っていて、老人会で

とにかくチームをつくりっていました。地域の組合員さんはとても熱心で、その方に教わって職員チームをつくり大会に参加しました。そこで「老人健診」の案内を行ない、外来の患者さんがずいぶん増えました。老人健診は今でいう特定健診で公費負担でした。

そこから健診をどんどん増やしました。一般的の診療が始まる前の7時半ぐらいから健診を開始して、今も現役のレントゲン技師小牧一哉さんも頑張って、短期間に300人ものバリウム検査をして、その中から3人の胃癌を発見し、協立診療所の評判はかなり上がりました。

私たち夫婦は半年間の支援を終え、いつたん宮城医連の坂総合病院に戻りました。そして、翌年の1983年4月に、夫の天谷静雄が協立診療所の所長として、私は看護師として仲間に加わることになりました。私たちが加わり職員は全員で15名くらいでした。みんな家族のようで、赤字を解消しようと頑張りました。地域の組合員活動にも積極的にみんなでかかわっていました。

私は、1998年8月から訪問看護ステーション虹に配属になりました。その後、2004年3月介護サービスセンター虹がオープンしました。私は介護サービスセンター虹の所長として、デイサービスの運営も行つてきました。働きながら通信制大学で学び、2014年3月に退職したのに、現役中から挑戦していた社会福祉士の国家資格を取得しました。2009年から1期4年間、市議会議員も経験しました。病気があり1期でバトンタッチしましたが、70代はまだまだ動けるので、もう少し医療生協の発展を願つて、まだ動けるので、もう少し医療生協の発展を願つて、微力ですが北西支部の活動に参加しようと思っています。

私は宮城県多賀城市の病院に勤務する看護師でした。夫の天谷静雄は同じ病院で医者をしていました。その夫が宇都宮出身だということで、全日本医連から栃木に半年間支援をと要請があり、1982年5月に初めて宇都宮協立診療所に来ました。3月末に長女が生まれたばかり。2人の職員が運転する「健康相談カー」に乗つて赤ん坊を抱っこして来ました。診療所の隣に借家が用意してあり、生活に必要なものは一通り揃つていて、当座の暮らしには困りませんでした。今考えると、生後1ヶ月の子を抱えて、私は誰も知つている人がいない土地に、よく來たなと思います。でも当時は何の不安もありま

虹のバレンタイン行動に54人集う

2／12（水）JR宇都宮駅周辺で虹のバレンタイン行動を実施しました。

虹のバレンタイン行動は全国の医療福祉協が事業内容や活動をお知らせする目的で行っています。この日は、医療福祉生協を紹介するバレンタインカードとポケットティッシュを配布。併せて、日本政府に対し、核兵器禁止条約の批准を求める署名とマイナ保険証の強行をやめ現行の健康保険証を残すことを求める署名に取り組みました。

駅周辺には多くの人通りがあり、若者から高齢者まで多くの方がカードを受け取り署名に応じました。岩手県から帰省していた大学生は、「私もマイナ保険証には反対です。大切な個人情報が漏洩してしまいます。今この政府は信用できない」と署名をしていました。

行動に参加した宇都宮協立診療所事務の南雲彩花さんは、「2年前に職場の仲間たちと広島で開かれた原水禁大会に参加しました。ニュースだけでは深いところまではわかりません。被爆者の話を聞いたり原爆資料館を見学して知ることが大切だと感じました。今日は高校生など多くの若者が私たちの話を聞いてくれました。理解すると署名もしてくれて、とてもうれしかったです」と話しました。

この日の行動で、核兵器禁止条約批准署名は60筆、現行の健康保険証継続署名は85筆集まりました。



組合員15名、職員39名が参加しました



署名に応じる若者

食べる力は生きる力



利根保健生活協同組合
生協みなかみ歯科
関口 悠紀 歯科医師

2／1（土）歯科医師の関口悠紀さんを講師に招き、お口の健康学習会を開かれました。栃木保健医療生協本部虹の杜をメイン会場に、各事業所やコムニティセンターとWebでつなぎ、約70名の組合員と職員が参加しました。

関口歯科医師は「おいしい料理を観て楽しみ、口に運んで、おいしいと感じることで味覚を楽しむ。よく噛んで飲み込むことで顎や舌、のどなどの筋力を刺激する。また、噛むことでたくさんの神経が刺激され、脳の活性化にもつながる。タンパク質や糖質、脂質などを摂取することで生きる力が湧いてくる。このようにお口の健康を保つことはとても大切です」と参加者に語り掛けました。また、虫歯や歯周病にならないための口腔ケアの大切さや定期的な歯科受診についても話されました。

参加者は「口からおいしく食べられることが楽しく暮らすために必要だと思った」「関口悠紀先生の話はとても分かりやすかった」と感想を話していました。



あいうべ体操をする会場の様子

続いて、宇都宮協立診療所の武井大（だい）医師が、摂食嚥下（食べ物を飲み込む力）治療の診療所での実践を紹介しました。他院で「口腔摂取は不可能」と

診断された患者さんに対し嚥下内視鏡を使ってのどの状態を確認し、「どちらで寝た状態で食支援を行う「完全側位法」でおかゆを食べる様子が紹介されました。武井医師は「経管栄養摂取から口腔摂取に切り替え、体重が増え座った姿勢を自分で支えられるようになります。歯科と医科の連携に可能性を感じる」と話しました。

講演の後、健康づくり委員会のみなさんが「きらきら星」の替え歌で「あいうべ体操」を紹介しました。「これなら楽しく続けられそう」「老人会の集まりがあるので来て欲しい」などの反響がありました。

ました。

プライマリ・ケア連合学会

関東甲信越ブロック地方に参加しました!

12／1（日）ライトキューブ宇都宮でプライマリ・ケア連合学会が開催されました。2024年度は栃木が主幹でした。学会の実行委員を含めて医療生協からたくさんの職員が参加しました。左の写真は学会の様子です。宇都宮協立診療所の武井医師が講師になり、参加された皆さんでグループワークをしているものであります。職種を問わずに活発に意見交換がなされました。



プライマリ・ケア連合学会の様子

師などの専門職をはじめ、介護職、行政など多くの多職種と連携や調整を図りながら実践しています。まさに医療生協で展開されている医療・介護や組合員の皆さんのが地域で取り組んでいる班会をはじめとした活動の一つです。

プライマリ・ケアは地域の中でも

ある日、地域の住民が医療生協本部に裸足で駆け込んできました。同居家族とうまくいかず、泣きながら来られました。難聴があったため筆談で職員が話を聞き、別の職員は自分の昼食を提供し、本人の意向を確認しながら地域包括支援センターとの連携を図りました。その方は、もともと親身に相談を受けてくれていた支部組合員の協力もあり、新しい生活を始めることが出来ました。再出発の連絡を受け、嬉しい気持ちになりました。

プライマリ・ケアってなに？

あまり聞きなれない言葉かもしれません。

プライマリ・ケアは地域をまるごと診る医療です。

多様な背景の人々や、病気だけでなく健康な人も、小児から高齢者まで地域の人々がいつでも身近に受診できる「総合的」な医療であり、その人によつと関り続ける「継続的」な医療でもあります。また医師や看護

ます。買い物に行けない地域の人々にとつて大きな役割を担つており、それにあわせて健康チェックや芋煮会などの企画を行ひ、にぎやかな地域のたまり場となっています。近くで誘い合い、孤立にならない取り組みの一環もあります。

各地域で行われている組合員活動は、まさにプライマリ・ケアで大切にしている地域ケアの一つであり、住み慣れた地域でその人のこゝ生活あることにつながつていると感じています。

（看護部長 前田 弘子）



協立診療所で開催された音楽会

芋煮会でのたか企画



宇都宮北西支部では毎月第3金曜日にお楽しみ企画を実施しています。その一環として、2/21（金）は地域活動部と共に芋煮会をしました。当日は100食以上の芋煮が提供され、多くの人が賑わいました。「芋煮が美味しい」「久しぶりに会った友人と話せて楽しかった」とたくさんの笑い声に満ちた企画になりました。



持ち寄り七輪コーナー



北西支部の有志が
芋煮づくり



お天気に恵まれた芋煮会



郷土料理「しもつかれ」試食会



芋煮は醤油味、みそ味の
2種類を作りました



OTCの購入に迷った際には薬剤師にご相談ください。薬剤師は症状、年齢、副作用歴、受診の有無、服用中のお薬や健康食品との飲み合わせなどを確認してお薬を提案させていただきます。また、お伺いした症状がOTCでは対応が難しいと判断した場合には医療機関への受診を勧める場合もあります。

レインボー薬局では風邪薬をはじめ消化器用薬、ビタミン剤、皮膚用薬、点眼薬など多種類のOTC、また経口補水液、栄養補助食品などもお取り扱いしていますので、お気軽にご来局ください。

セルフメディケーション

セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当すること」です。具体的には①適度な運動、バランスの取れた食事十分な睡眠・休息を心掛け体調管理を継続する、②軽度な身体の不調（かぜ、頭痛、かゆみなど）の際には処方箋なしで購入できる市販薬（OTC）を活用する、などがあります。



また、医学部に合格した高校生2名も参加し、受験経験や医師を目指したきっかけについて語りました。児童たちは興味津々で質問を投げかけ、実際の医療器具の使用体験を通じて医療の世界を身近に感じる機会となりました。

授業を終えた植木医師は「子どもたちの純粋な好奇心に触れ、たくさんのエネルギーをもらいました」と語りました。児童から「将来医師になりたい」との声も上がり、夢を考える貴重な時間となりました。
(学生担当 工藤)



医師の仕事を学ぼう 『夢いっぱい教室』開催

2/12（水）

西が岡小学校の6年生を対象とした

『夢いっぱい教室』に、宇都宮協立診療所の植木孝典医師がゲストティーチャーとして招かれ「医師の仕事」について話しました。

植木医師は診断や治療、手術、予防接種など医療の多様な仕事を紹介し、医師のやりがいや終末期医療への関心について語りました。医学部での勉強や、医師になつてからの継続的な学習の重要性についても説明しました。

通所介護 デイサービス虹

編み物が流行っています

デイサービス虹の利用者さんは、入浴の待ち時間や昼食後の時間をそれぞれ自分の好きなことをして楽しんでおられます。読書をしたりパズルをしたり、会話を楽しんだり。中にはその様子を楽しそうに眺め、のんびりとされている方も。それぞれの自由な過ごし方を職員は一緒に楽しんだり、時にはそっと見守らせていただいてあります。

そんな中、女性の利用者さんの中で密かにブームになっているのは編み物です。黙々とご自身のマフラーを編んでいらっしゃる方や、グループになつて会話を楽しみながらアクリルたわしや小物を次から次へと編んでいらっしゃる方々など様々ですが、昨年末あたりから女性利用者さんの楽しみの一つになつていることは間違いないさそうです。チークにしたアクリルたわしです。色合いが素敵ですね。

デイサービス虹 所長 金田 千恵
☎ 028-1600-1601



体験利用・見学を実施しています。
(体験利用は昼食代700円がかかります)
まずはお問合せください。



組合員の いきいき活動



寒い日のぽかぽかランチ（1/25 矢板班）

体操後、仲間と食べる手づくりのお昼ごはんが毎月のたのしみです



特別なコンサート (2/4 宇都宮中央支部)

組合員さんとご近所さんが20名ほど集まり、出張コンサートを開催しました

手配りさん交流会 (2/8 宇都宮東支部)

ことぶきハーモニカアンサンブルさんの演奏を楽しみ、和やかに交流しました

日光でゆかいな笑顔 (2/8 日光ゆかい班)

健康づくり委員会がコラボ！
雪が降り積もる中、ボッチャで暖かくなりました

出資金情報

いま生協は
 ①加入組合員(1月)
 ……41人
 ②組合員総数
 ……11,955人
 ③増資金額(1月)
 ……1,256,000円
 ④出資金総額
 ……333,833,500円
 ⑤一人平均出資額
 ……27,924円
 (2024年1月31日確定)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
				4		7	6		
				5				7	
					9				
	7		8		5	2	3		4
								3	
	6	1		2	5				
								2	
	4		5		9	3	1		7
	2		7					8	
		6		8	2				

クイズコーナー

今月のナンプレは比較的易しい出題です。頑張ってください。
 目標時間は15分。

抽選で3名の方にQUOカードをプレゼント!
 応募締切 4月15日 消印有効



1月号クイズの当選者

ナンプレ
 ペンネーム さくら
 佐野市 熊倉 正子さん
 宇都宮市 高橋 守一さん

四字熟語パズル
 宇都宮市 大脇 敏昭さん
 宇都宮市 斎藤 恵子さん
 宇都宮市 鈴木 廣子さん

夜6時以降や休診日は、宇都宮市の夜間休日救急診療所へお願いします。☎ 028-625-2211

宇都宮協立診療所の外来診療表 4月

〒320-0061 TEL 028-650-7881(代)
 宇都宮市宝木町2-1016-5 FAX 028-650-7884

新患の方、急患の方、予約日はまだだけれど具合が悪くなった方などは予約がなくても診察ができますので、ご来院ください。

受付時間	月	火	水	木	金	土
8:45～11:45	植木(予約) 関口 武井 軽部/大澤(内視鏡)	亀井 関口(予約) 笠原 片山	軽部(予約) 笠原 片山	軽部(予約) 関口 應武 山本	軽部(予約) 関口 應武 大澤(隔週) 亀井(内視鏡)	交代制
14:30～18:00	軽部(予約) 関口 植木 山本	山口 應武 大澤 瀬山	休診	軽部(予約) 亀井 片山 笠原	軽部(予約) 瀬山 亀井 16:30まで	休診

*両診療所、新型コロナウイルス感染症対策中のため診療体制が変更になります。※乳児検診(4ヵ月、10ヵ月)希望の方は、事前にお電話下さい。

●火曜日と金曜日の受付は午後4時30分までです。●「予約」と書いてあるところは時間予約がとれます。予約をとった患者さんのみの診療となります。●予約の無い方は、予約の無い患者さんを診る医師がおりますので、そちらをご利用ください。●原則電話での診療受付はできません。発熱や感冒症状がある方は、受診方法をご案内いたしますので、まずは受付時間内に診療所へご連絡ください。予約の変更是電話でもできます。●土曜日は、交替制となっています。担当する医師は外来に掲示します。

生協ふたば診療所の外来診療表 4月

〒321-0164 TEL 028-684-6200
 宇都宮市双葉1-13-56 FAX 028-684-6208

受付時間	月	火	水	木	金	土
8:45～11:45	北岡(胃カメラあり) 千嶋	北岡(胃カメラあり) 武井	天谷 安倍	北岡 植木 古橋	千嶋 天谷	※交替制
※14:00～18:00	天谷 ※交替制	天谷 軽部(予約)	休診	千嶋 安倍	15:00～ 16:00 ※ワクチン外来	関口 15:30～ 16:00 ※ワクチン外来

★鈴木医師が3月で退職となります。6年間大変お世話になりました。

★4月より新しい医師の着任が予定されています。皆さまよろしくお願ひします。

※午後の診療開始は16:00～18:00です。※コロナワクチン接種はワクチン外来へお願いします。

※月曜の午後・土曜の午前中の担当医についてはお問い合わせください。

【投稿の募集要項】クイズコーナーの解答、文芸コーナー、読者の声を募集しています。／手紙、はがき、FAX、メール、診療所や班会での手渡し、どのような形でも受付します。／毎月の投稿締め切りは翌月15日です。／お名前(ペンネーム可)、住所、連絡先を明記してください。／感想やご意見などは、文意を変えずに編集させていただくことがあります。掲載作品は原則として返却いたしません。返却希望の方は必ず投稿時にお申し出ください。

1世帯あたり1通、郵送もしくは組合員による手配りで毎月お届けしています。
 本人が住んでいない、お引越しなどの場合はお手続きが必要です。

連絡・投稿先



栃木保健医療生活協同組合

「健康とくらし」編集委員会宛

〒320-0061 栃木県宇都宮市宝木町2-1028-17

電話 028-600-1606 FAX 028-600-1607

HP <https://www.tochigihoken.or.jp/>

メール chiiki@tochigihoken.or.jp

発行人：関口真紀 印刷所：(株)マルダイ印刷

毎月1回20日発行

HPはこちら



実をめぐらしが、「虹のバレンタイン行動」と小学校の「夢のバレンタイン行動では核兵器問題とマイナーバレント問題の2つの署名を呼びかけました。保険証問題への対応です。この問題への対応です。実践するのが誰もが希望をもつて生きられる平和でいい社会をつくることによる課題解決する。私たちの理念です。理念に沿つた大切な未来への対応です。」

編集後記

協立診療所、ふたば診療所とともに、4月から診療体制が変わります。新しい診療体制表は左記の通りです。今後も変更があつた場合には診療体制表を随時更新いたします。新年度から新たに常勤医師として着任する医師の紹介は今後の「健康とくらし」で掲載する予定です。両診療所ホームページの医師紹介欄も更新予定ですので、ご参照ください。